

事業の中で“場”をデザインする

当事者（経験専門家）



地元ものづくり企業



出会い
対話
学び

相互
作用

出会いと学びの
プラットフォーム
有識者懇談会



デザインの視点

認知症フレンドリーコミュニティー事業から生まれたもの



ぜひ読んでね!

今月の特集

認知症の人と家族が安心して暮らせるまち・
なごやの実現を目指して

認知症当事者と企業の協働 ”靴下プロジェクト“



認知症の人にとっても
履きやすい靴下をデザイン

認知症の特徴である位置の感覚が掴みにくい人でも自分で履けるように、前後の目印となる踵がなく、履き口を広げやすく作っています。高齢者施設などで使用しながら開発中です。(表紙で試着中)



広報なごや



名古屋市公式note

株式会社 大翻

誰にとっても履きやすい靴下

Unicks (ユニークス)




“靴下プロジェクト”はなぜ生まれたか なにを生んだか

- 有識者懇談会という場で、「靴下を履くのに苦労している」という生活課題を持った当事者と、靴下をつくるものづくり企業が出会った
- これまで認知症を「関係ない（他人ごと）」と捉えていた企業が認知症を「自分ごと」として捉え直した
- ヒアリングでの対話から、「靴下を自分で履けること」は人としての尊厳に関わる大切なことという、これまで気づいていなかった”新たな価値”に気がつくことができた

出会いと学び合いは
既存のフレームを超え
新たな価値とアイデアを生む！



靴下のプロトタイプ（試作品）を披露する後藤さん
第2回有識者懇談会（令和2年11月）にて



後藤さんがしたような“体験”や
“変容のプロセス”をどうしたら広げられるか

社会課題に取り組むということは
マイナスをゼロにすることではなく
新しい価値を生むことだ



第3回有識者懇談会 後藤委員の発言

認知症のある人と地元企業の協働プロジェクト

有識者懇談会（以下、懇談会）で認知症のある人と、ものづくり企業の出会いによって、「誰にとっても履きやすい靴下」プロジェクトが動き出しました。この取り組みについて、懇談会委員の後藤さんにインタビューしました。



自己紹介をお願いします。

私たちは靴下や下着などを企画販売する会社で、本社が北区にあります。日本のものづくりを未来へ伝え、すべての人に優しい会社をめざしています。



後藤さん



懇談会委員への依頼があった時の感想を教えてください。

正直「なぜ自分に？」という思いでした(笑)。いち民間企業の視点で臨もうと思っていました。



後藤さん



第1回懇談会では、認知症当事者である委員から「靴下を履くのに苦労している」という生活課題が提示されました。

認知症のある人が、靴下を履くのに苦労していたなんて知らなかったので驚きました。その後サービスヘアリングに行き、実際の様子を目の当たりにして意識が大きく変わりました。



後藤さん



第2回懇談会には試作品ができていて驚きました！認知症当事者の委員もとても喜んでいましたね。

北区のサステナまち計画*の企画で学生と一緒に高齢者が履きやすい靴下を考えたことはありましたが、使い手との協働は初めてなんです。とてもワクワクするし、使い手の反応を直接感じられて嬉しかったです。



後藤さん



試作品について、工夫した点や苦労した点はありましたか？

ヘアリングで気がついたことは、遠近感がうまくつかめず、靴下の口に足がひっかかるということでした。そこで、伸びやすい素材にすることで、靴下の口が広がりやすいようにしました。かかとに位置があわせられないこともあったので、かかとのない袋状にもしています。



後藤さん



企業の目線で今回のプロジェクトをどのように捉えていますか？

少し視野を広げて社会課題として捉えています。新しいアイデアを求めている企業ほど、社会課題の中にヒントがあるのではないのでしょうか。



後藤さん



認知症のある人との出会いが、新しいアイデアにつながったんですね。

こんな取り組みが増えて、北区が認知症のある人にとって住みやすく、企業にとっても「ここで事業をしたい」と思えるまちになるといいと思います。



後藤さん

“ストーリー”を伝える インタビュー記事

北区認知症フレンドリーコミュニティ 行動指針

認知症フレンドリーコミュニティとは、「認知症のある人が、高い意欲を持ち、自信を持って意義のある活動に参加、貢献できると感じられるコミュニティ」のことで。

北区では、「希望する生き方を自ら選び実現するまち」を目標として、以下の5つの行動指針に基づき皆さんと一緒にまちづくりを進めていきます。

※以下の行動指針は、本人ミーティングや有識者懇談会、同行取材などの取り組みから生まれたものです。



行動指針

1

私たちは、認知症のある人とともに、だれにとってもフレンドリーなまちづくりを進めます。

取り組みの視点 包括性、学びあい、発信



行動指針

2

私たちは、それぞれのこれまでの暮らしを大切に、変化を受け入れながら柔軟に対応します。

取り組みの視点 意思の尊重、連続性、順応性



行動指針

3

私たちは、トライ&エラーを繰り返しながら、まちづくりを進めます。

取り組みの視点 チャレンジ、寛容性



行動指針

4

私たちは、認知症のある人を含む多様な人と対話し、ともに新たな価値を創出します。

取り組みの視点 創造性、連携、プラットフォーム



行動指針

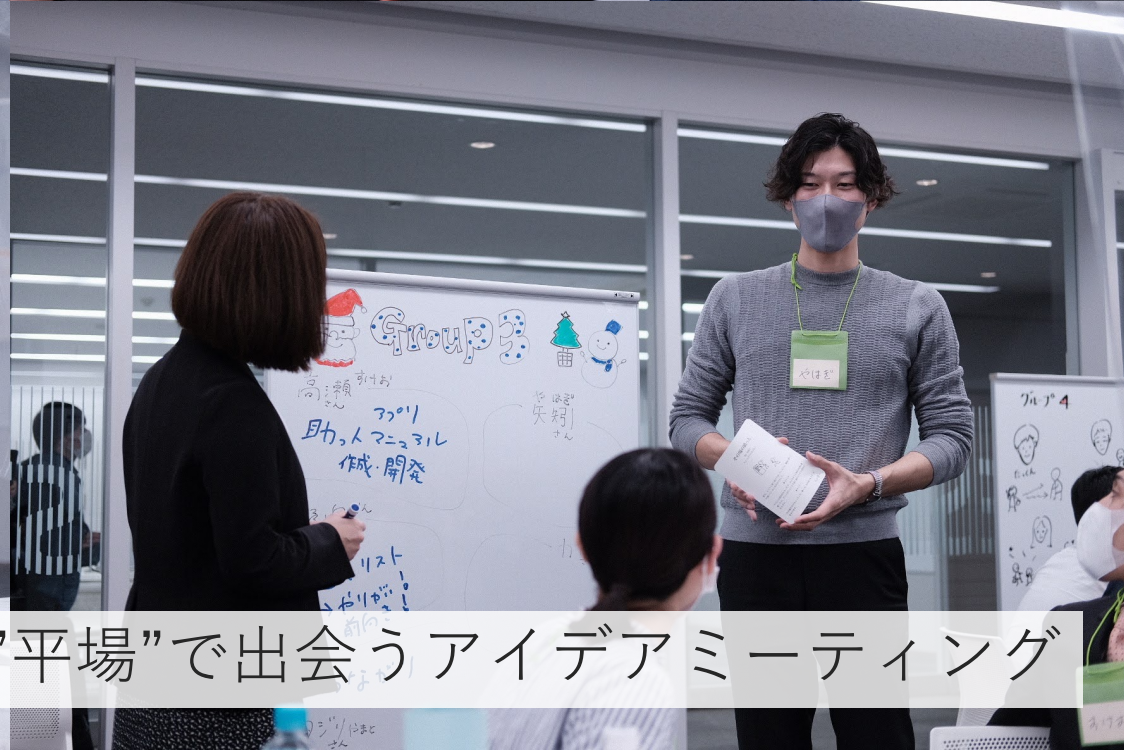
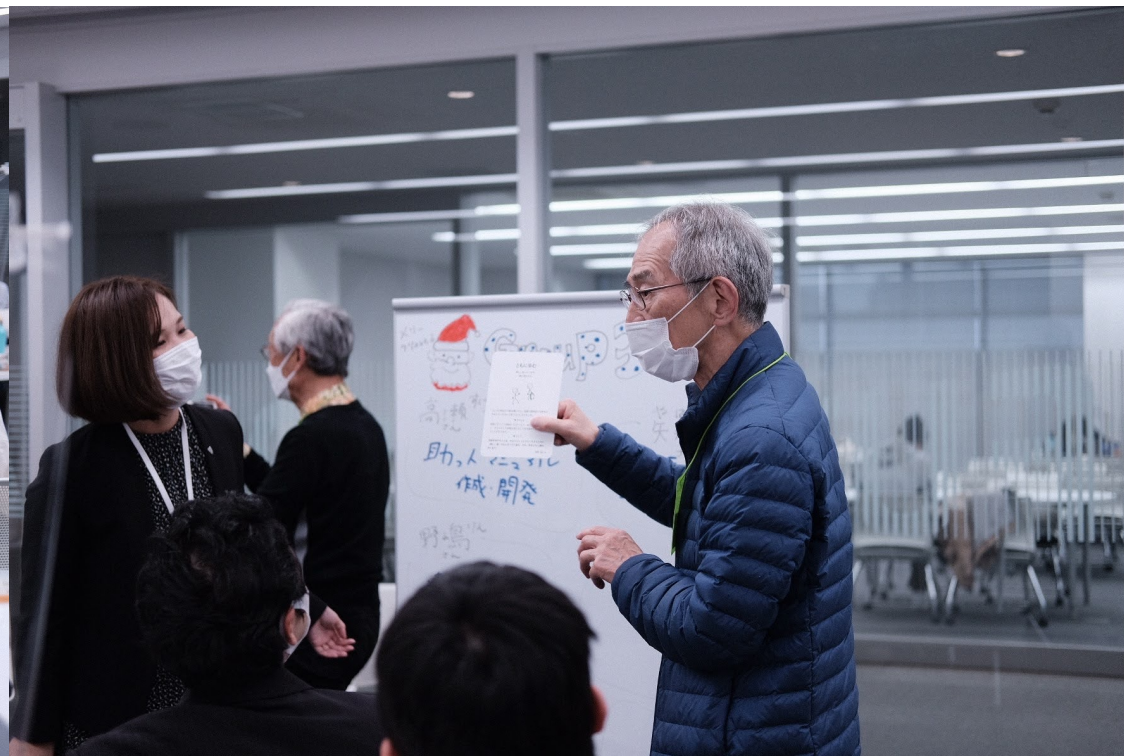
5

私たちは、認知症フレンドリーデザイン※を意識しながらだれもが安心できる環境づくりを進めます。

取り組みの視点 持続性、アップデート



※認知症フレンドリーデザインについては13ページをご覧ください。



人と人が”平場”で出会うアイデアミーティング